

# 琵琶湖・淀川流域対策に係る取組について

## ～令和7年度 取組報告～

令和8年4月23日  
本部事務局地方分権課

「琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 報告書」等を踏まえて設置された水源保全連絡会議（流域府県市で構成）においては、「いのち育む“水”のつながりプロジェクト」（以下「プロジェクト」という。）に基づき取組を実施した。また、琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会を開催し、同連絡会議の取組等について報告を行った。

### いのち育む“水”のつながりプロジェクト（概要）〔令和5年度～令和7年度〕

#### プロジェクトⅠ 流域の現状と課題の共有

- ① 水源保全や水循環に関する対策及び将来リスク等をマッピング
- ② 長期的な課題や取組の方向性等について検討・整理

#### プロジェクトⅡ 水のつながり等の情報発信

- ① 水循環等に関するシンポジウムを開催
- ② 大阪・関西万博において、水のつながりや将来リスク等を情報発信

#### プロジェクトⅢ 住民等の参画による機運醸成

- ① 他団体と連携し、琵琶湖・淀川水系で清掃活動を実施
- ② 学生など若者世代の参画機会を創出

## 1 森林整備の効果に関する調査研究〔プロジェクトⅠ〕

前年度に引き続き、森林整備の有無による水循環への影響をシミュレーションし、各府県の森林ゾーニングの反映等により精度を高め、水源保全に係る森林整備の効果を定量的に評価した。

- ・ 森林現況ケース、森林荒廃ケース、森林整備ケースに区分し、気候変動予測を加味して、基底流出量や湧水流量等を算出。
- ・ 湧水年の枚方地点において、森林整備により荒廃時と比べ7.2 m<sup>3</sup>/秒流量が増加する結果となった(約250万人の一日の水道用水使用量に相当)。
- ・ 農業等の生業面への影響を示すため、湧水年の滋賀県愛知川における代掻き期やかんがい期の不足流量を算出。森林整備を行うことで、荒廃時と比べ愛知川流域の水源である永源寺ダムの有効貯水量の約11%相当が改善する結果となった。

## 2 万博催事「いのち育む水のつながり WEEK」の開催〔プロジェクトⅡ・Ⅲ〕

琵琶湖・淀川流域における「水のつながり」をテーマに、国籍や世代を問わず楽しめる催事を開催。国内外に琵琶湖・淀川流域における現状や課題、魅力等について発信した。

【期 間】 令和7年7月30日(水)～8月3日(日)

【場 所】 関西パビリオン多目的エリア

【来場者数】 延べ約2万人



水のつながりを表現したイラストパネル



企業・学生・団体等の参画による体験型ワークショップ・ブース出展



クロージングイベント  
上流・中流・下流の高校生と三日月連合長との意見交換

### 3 水のつながりシンポジウム [プロジェクトII・III]

【日 時】 令和8年3月14日(土) 13:00~16:00

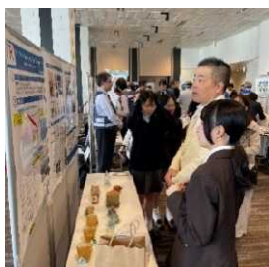
【会 場】 梅田サウスホール・小ホール

【テ ー マ】 流域を越えて、世代を越えて、みんなで考える水、森、里山

【参加者数】 約90名

【プログラム】

流域内外つながり広場 — 琵琶湖・淀川から他流域まで、活動の「今」を語り合おう —
オープニングイベント —上流・中流・下流の学生と振り返る万博催事「いのち育む“水”のつながり WEEK」—
講演1 「静かに崩れる“水のインフラ”— 気候変動・人口減少時代の森林整備と広域連携 —」
講演2 「環境と経済の好循環を目指す結の森プロジェクト」
これからの森林・里山保全のあり方についてのパネルディスカッション



流域内外つながり広場



講演



パネルディスカッション

### 4 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会への報告

<第1回>

【日 時】 令和7年12月16日(火) 10:00~12:00

【出席者】 多々納 裕一委員(座長)、石田 裕子委員(副座長)、浅野 耕太委員、  
田中 賢治委員、平山 奈央子委員

【議 事】 (1) 座長・副座長の選出について  
(2) 琵琶湖・淀川流域対策の取組の方向性(案)について

【主な意見】

- ・ 自然はそのまま様々なものを与えてくれるものではなく、人間がしっかり働きかけて初めて価値を発揮する。自然を資本と捉えて経営するという感覚を世の中に普及させることが望ましい。物事の見方を変えるために、関西広域連合が理念的なことを訴えることが大事。
- ・ 流域の出口である大阪湾とのつながりも含めて考えてもらいたい。
- ・ いきなり上下流を意識することは難しい。日常の中で「自分の暮らしと水のつながり」を意識することが重要。
- ・ 団体に協力を求めるだけでなく、関わってよかったと思えるように何らかの形で報いることが大事。

## <第2回>

【日 時】 令和8年3月25日(水) 10:00~12:00

【出席者】 多々納 裕一委員(座長)、石田 裕子委員(副座長)、田中 賢治委員、平山 奈央子委員

- 【議 事】 (1) プラスチック対策検討会の取組について  
(2) 水源保全連絡会議の取組について  
(3) 琵琶湖・淀川流域対策の取組の方向性(案)について

### 【主な意見】

#### (1) プラスチック対策検討会の取組について

- ・ せっかく取り組んでいるのに、取組内容がどう現場の改善や成果に繋がったのかが見えにくい。
- ・ 市民や自治体等に成果を共有すると同時に、シンポジウムやイベントでの優良事例のシェアや、市民が協力してよかったと思えるような仕組みづくりを進められると良い。

#### (2) 水源保全連絡会議の取組について

- ・ 森林整備効果の分析結果については、ダム貯水量や取水制限回避への寄与等、意義が伝わりやすい表現を用いてほしい。
- ・ シンポジウムでどのようなことを行ったか、HP等で概要が伝わるようにしてほしい。そうすることで参加した高校生にとっても記念になる。

#### (3) 琵琶湖・淀川流域対策の取組の方向性(案)について

- ・ シンポジウムは毎年開催したほうがよい。特にパネル展示は団体の輪を広げるという観点で大切であり、継続的に場を設けたほうがよい。
- ・ フィールドワークは企業や専門家を巻き込んでほしい。流域内の上下流交流の機会を創出したり、他流域とも交流を広げたりしてほしい。